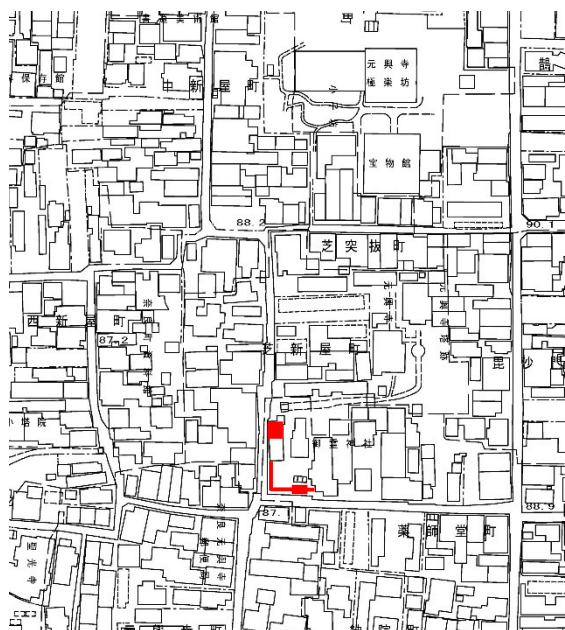


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	35	名称	御霊神社宝庫及び門塀	
指定年月日	R7.3.19	所在地 (指定地)	薬師堂町 24 番地 (薬師堂町 24 番地、薬師堂町 23 番地)	
指定建造物	表門	建築年代・概要	明治頃	木造、腕木門、本瓦葺
指定建造物	横門	建築年代・概要	昭和前期	木造、腕木門、本瓦葺
指定建造物	築地塀	建築年代・概要	明治頃	土塀、本瓦葺、東塀と西塀からなる
指定建造物	宝庫	建築年代・概要	明治頃	土蔵造二階建、切妻造、本瓦葺
位置 ・ 歴史	奈良町中心部の薬師堂町にあり、主祭神の井上皇后をはじめとする八所御霊を祭る。宝徳3年(1451)の土一揆で元興寺金堂等が焼けた後、井上町から遷座したという。享保20年(1735)成立の『奈良坊目拙解』は、奈良町南西部の64町を氏子とすると記す。今もほぼ同じ70町余りのエリアで広く信仰され、「ごりょうさん」として親しまれている。秋の例祭は、神輿渡御の華やかな行列が氏子地域を巡行し、獅子舞も行われるなど、多くの人で賑わう。 境内は南西角地にあり、南面と西面南半は築地塀で囲む。南面に鳥居と表門を前後に構え、中央に拝殿、奥に本殿を配する。西面中央に横門、境内北西隅に宝庫がある。年代は明らかでないが、形式・技法から宝庫は明治前期以前、表門は明治中頃とみられ、築地塀も明治期とみておく。横門は、隣接する八尋殿が建てられたという昭和前期とみておく。			
建物特徴 ・ 改修履歴	表門は三間一戸、潜戸付の腕木門で、桁行5.2m、中央間2.8mと規模が大きく、鳥居や築地塀とともに、奈良町において広く信仰を集める神社にふさわしい景観を形成する。 横門は一間一戸、間口2.1mの小規模な腕木門ながら、軒を小舞裏とし、正面と背面で軒の出を変えるなど、細部まで丁寧に造られている。 築地塀は、道路側は四本筋の筋塀で、基礎は花崗岩、壁体は淡黄白色の漆喰塗、筋と瓦を受ける蛇腹部は白漆喰塗とする。壁体の出隅は人造石塗洗出としており、意匠上のアクセントとなっている。敷地側は、基礎はカナンボ石(三笠安山岩)、壁体は白漆喰塗である。 宝庫は桁行3間、梁間2間の土蔵で、正面(東面)に切妻造妻入の庇を付ける。外壁は、白漆喰塗を基調に、正面は腰を人造石塗洗出、側背面は高い腰縦板張とする。庇は、正面に臺股や撥束を入れ、軒を小舞裏とする。戸口前にカナンボ石を精緻に加工した石階を置く。 <改修履歴>昭和58年：表門扉取替、平成元年：横門扉取替・築地塀塗替・宝庫板壁張替、平成25年度：横門屋根葺替・築地塀塗替・同屋根補修 令和6年度：宝庫建て起こし・内部補強・屋根補修・漆喰塗替・板壁張替			
活用	引き続き宗教施設として活用。			
価値	奈良町南西部において地域住民に広く信仰される神社の境内を構成し、宝庫は秋の例祭において各町を巡行する神輿や装束等を納める建物であることなどから、奈良町のコミュニティにみる歴史的風致及び地域の祭礼・行事にみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

